

新宅 道和 選

特 選

日光がナイフのように尖る夏日陰を渡る私はくの一

呉市立仁方中学校三年 竹内 絢音

【評】 厳しい日差しを「ナイフのように尖る」と詠んだ。日差しを避けて日陰を歩くことから忍者を連想したのも巧み。

幕上がりラの音重なるチューニング音の世界へ引き込む魔法

広島市立庚午中学校二年 藤井 春乃

【評】 指揮者登場の拍手が鳴りやみ、オーケストラの音合わせの情景を「魔法」と詠んだ。期待に満ちた緊迫感が伝わる。

追いつけないあの子のピッチとストライドいつか自分が背中を見せる

広島市立庚午中学校二年 木村 仁海

【評】 多くの部活の短歌の中、「ピッチと」「背中を」と具体的に詠んだことでイキイキした短歌になった。

おひさまがびかびかびかりミニトマトあかいしんじゅのネックレスみたい

庄原市立東小学校一年 田原 結衣

【評】ツヤツヤ光るミニトマトを「あかいしんじゅの」と詠んだ。「びかびかびかり」のオノマトペも楽しい。

ひりひりだぬればよかったひやけどめママもひりひりさんだるのあと

庄原市立東小学校一年 山岡 弥緒

【評】自分の日焼けから母の日焼けへ。作者は日焼けを免れて白いままの母のサンダルの跡をズーミングし切り取って見せた。

友達に抱いてしまった恋心仲良くいたい思いを隠す

県立三原高等学校一年 桃谷 諒太

帰り道見慣れた姿振り返る微笑む君に恋をしたんだ

福山市立誠之中学校二年 屋方 夢乃

あなたから返信くるのは嬉しいよでも「おK」だけはさすがにきつい

広島市立瀬野川中学校二年 亀永 優月

指先と櫛に絡んだ髪すいてポニーテールの夏が始まる

県立広島皆実高等学校二年 佐藤みころ

「先輩」と呼び止められてゆっくりと嬉しさ隠して振り向く私

広島市立井口中学校二年 福田 真夕

鏡にはうらの自分をかくせずにぼくを見ている鏡のぼくが

庄原市立高野小学校五年 馬舩 清太

コロナ禍で制限された夏休みこれも意外と慣れてしまった

県立三原高等学校二年 福村 愛結

念願の修学旅行小雨降り気圧は低く気分は高く

庄原市立庄原中学校二年 松代 笑佳

閉じられる学校最後の卒業生私一人が送られて行く

庄原市立庄原中学校二年 土居 穂香

たのしみは妹と初夏にベランダのブルーベリーを二人で摘む時

広島市立己斐小学校六年 津田 深遥

ドキドキは親におられすねていた妹の目がこつちを見る時

広島市立己斐小学校六年 柳川 心

いもうとがとことこあるくぼくのあとおとうともきてゆかいなこうしん

庄原市立東小学校一年 佐々木雄大

桜の木ピンクのかさに見えてくる雨がふったら使つてみたい

庄原市立高野小学校五年 伊達 美桜

振り返る祖母がいたはず台所二月のあの日時が止まった

県立三原高等学校一年 浅海 花菜

いきたいなおばあちゃんたちあいたいなころなころころがつていけ

庄原市立東小学校一年 庵原 誠心

夏休み少し涼しい早朝はひいばあちゃんの家の香りだ

庄原市立庄原中学校二年 三上 知夏

おるすばんれんしゅうしてるなつやすみすこしだけならできるきがする

庄原市立東小学校一年 浅井 幸芽

戦争に環境問題感染症授業で予習はしたはずなのに

県立三原高等学校二年 三輪 優大

手をあげる私を見ている運転手お礼したくて高く手を振る

庄原市立庄原中学校二年 新井 梓

よく鳴いて綿毛のような雑種猫手の平に乗る小さな命

庄原市立庄原中学校二年 山口小友季

新宅 道和 選

特 選

喜びはガイド施し子が親となり子連れで歩む慰霊碑めぐり

広島市 田村 陽子

【評】ヒロシマの願いを踏みにじる核の恐怖が迫る昨今希望を与えてくれる短歌。「施し」は「せし」としたい。

八月六日の猿猴川の貝堀りは祖母に諭され川へもどしぬ

安芸高田市 井上 愛

【評】子供の頃お盆の魚釣りは祖母から止められていた。大勢の被爆者が水を求めて亡くなった猿猴川ならなおさら。

よるべなき御霊もあろうヒロシマの至る所に遺霊碑あれど

広島市 加土 道子

【評】原爆で亡くなり、遺骨の引き取り手のない方、亡くなったことも知られていない方々の御霊に心を寄せた。

十八歳ある日ボンと成人し何も変わらぬ日常をみた

廿日市市 野田友里恵

【評】十八歳成人の実感のなさを詠んだ。「ボン」が効いている。「ある朝ボンと」とすると字足らずが解消できる。

ハロウインの魔女ひとり乗せたバスがでる郊外線の早い終便

広島市 岩本 幸久

【評】乗客はハロウインパーティー帰りの疲れて眠る「魔女」ひとり。郊外の暗い夜道を走るバスの情景が伝わってくる。

廃校にIT企業が出店す老いで賑わうスマホ教室

この線路つたい逃れし人数多廃線の今語る人無く

稜線を真赤に焦がす陽に惑ふいくさなき世を祈る八月

七夕に今年も同じ願い事平凡でいい平和を祈る

明るくて優しい声に人は寄る私が一番寄っているはず

父母よりも夫と暮らした年月の長さそれでも古里恋し

ハルビンを発つ夜の雨かかる日に逃げ場もあらず行列を組む

エアコンのリモコン今日も奪い合う暑がりの父寒がりの母

食べたいと胃瘻の夫に泣かれては乾いた口をゆっくりと拭く

これ見たと甘藷かかげる園児らの夕日に映えて誇らしき顔

竹原市 入駒 智子

三次市 山本 圭子

三次市 林 勝子

庄原市 新宅 涼枝

呉市 喜多 省吾

広島市 岡田 郁枝

広島市 中垣 悦子

広島市 羽城 裕子

江田島市 住田 照水

広島市 三谷 俊明

九十五の姉健やかを待みとし今日山畑に大根を播く

世羅郡世羅町 高本 澄江

性格の表れ畝の直線にみるみる緑真直に並ぶ

福山市 高橋 泰子

産院の車の出入り多きなかお腹さすりて姪子^{めいご}出て来る

廿日市市 金子貴佐子

植え替えもしてやれぬままクンシランわんぱくそうな蕾が揃う

尾道市 島谷 文恵

ドーム前電車を降りる足下を緑の草が萌えて歓迎

広島市 小西 博子

帰らじと泣いて家出る子の後姿に母は手を合わせおり

呉市 芳野 幸忠

きゅつとした蕾の徐々にほどけゆくどの瞬間も美しき芍薬

広島市 藤本智恵子

雪搔きのいらない土地へ父母の墓を移してコスモスの風

広島市 小都 妙子

言葉なく荒れたる手指をわれに見せ妻はおもむろに厨に入る

尾道市 川口 靖文

被爆死の妻の髪留さがしあて十日の後に伯父も逝きたり

三次市 堂本 明美